

もくじ

1. 赤いろうそくと人魚 2
2. 注文の多い料理店28
3. ごんぎつね58
4. よだかの星84
5. 子どもの好きな神様 114
6. どんぐりと山猫 130

あか
赤いろうそくと

にんぎょ
人魚

原作： 小川 未明

イラスト： kotokoto

編集： YellowBirdProject

にんぎょ　じぶん　なか　やさ
人魚は自分のお腹を優しくなでました。

にんぎょ　なか　なか　こ
人魚のお腹の中には、子どもがいました。

(これから生まれてくる子どもには、
こんな暗い、悲しい生活はさせたくない。
離ればなれで暮らすのはさびしいけれど、
どこにいても元気で暮らしてしてくれるのならば、
それだけでいい。人間はみな優しい人ばかりだから、
きっとこの子もかわいがってくれるはず)

しばらくして、にんぎょ　くら　つめ　うみ　およ　りくち　む
人魚は暗く冷たい海を泳いで、陸地に向かいました。

はるか　かなた　かいがん　こだか　やま　じんじや　あか　なみま
はるか彼方、海岸の小高い山にある神社の灯りが、波間に
浮かんでは消えていました。



あき ひ
ある、秋の日のことです。

に さんちふ つづ あめ や おお そと
二、三日降り続いた雨が止み、ごんは大よろこびで外へ
と だ やま お い
飛び出し、山を下りて行きました。

みちばた ほ あめ ひか
道端のススキの穂には、まだ、雨のしずくが光っていました。

おがわ かわ なか はい こし みず
小川のほとりまでくると、ごんは、川の中に入り、腰まで水に
あみ て ひょうじゅう み
つかりながら、網を手をしている、兵十を見つけました。

ひょうじゅう あみ も あ なか くさ は きぎ
兵十が網を持ち上げると、中には草の葉や木切れに
ま ふと はら おお はい
混じって、太い腹のうなぎや、大きなきすが入っていました。

ひょうじゅう さかな い どて あ
兵十は、とった魚をびくに入れ、土手に上がると、また
あみ も かわ なか はい い
網を持って、川の中に入って行きました。



しかし、よだかはなんとかこらえて、また飛び上がりました。

よだかは北の『大熊座』に向かってさげびました。

「お星さん、北のお星さん、どうかぼくを、
あなたの元へ連れて行ってください！

焼けて死んでもかまいません！」

「よだかよ、少し頭を冷やしたらどうだ。

そういう時は、海にでも飛び込むか、もしくは、
氷を浮かべたコップの中にでも飛び込むんだな」

